

いま、コロナに思う

～アマチュア合唱人として～

高三 洋之 TAKASAN Hiroyuki

私はアマチュア合唱人として、とりあえず考えるためのたたき台にと3つの思いを記します。ただ、時系列的に何が優先かはわかりません。

1. 合唱イベント、合唱練習などの活動は中長期的な自粛期間を設ける。

合唱の練習がクラストになることは、感染者が減少しても変わりません。このウイルスに感染しても、適切な処置を施せば命にかかわることはないといえるような国民的な合意が形成されない限り、合唱練習を再開することは難しいと思います。同様に演奏会なども無観客も含め、かなり厳しいのではないかと思います。

現在使われ始めている「アビガン」の、臨床での試行状況や新たな特效薬の開発ワクチンの開発などの見通しなどにも従い、少なくとも1～2年の自粛期間を踏まえたうえでの再開プランを立てるほうが良いと思います。

「夏には」「秋には」と現状を憂うのではなく、もっと先にスタートラインを置きながら、今はバーチャルな面の充実を図るほうが合唱人口を減らさずに済むのではないのでしょうか。

2. ICT※を活用した遠隔練習や座学などで、来るべきリアルアンサンブルに備えた活動形態に徹する。

すでに、長い自粛期間を見据えてかどうか、現場でさまざまなICTの活用が試みられていますが、ソフトウェアのさらなる進化をめざして、ユーザーの知見を集約し新たな開発へのエネルギーになればと思います。

(※ ICT：情報伝達技術。ITとほぼ同義。

Information and Communication Technologyの略。

ICTでは情報・知識の共有に焦点を当て、「人と人」「人とモノ」の情報伝達といったコミュニケーションがより強調されている。)

具体的には、今使っている会議室的なソフトを、純粋に音楽目的に使えるアンサンブルソフトの開発へつなげていけるようにしたいですね。

今あるものをまず使い、私たちが使いやすいものになるためには、どこをどう変えればよいかなどをフィードバックすることで、開発スピードを上げていただくことができるのではないかと思います。私たちもただ開発を待つのではなく、どんなソフトが必要か声を上げたり、試作版を積極的に使っていくことも支援につながるのではと思います。

具体的には今ヤマハさんで開発が進んでいるのが気になりますが、他のメーカーさんでもぜひ開発してほしいですね。

3. フリーランスの音楽家の生活を支援する。

私はアマチュア合唱人ですので、別の仕事があり、収入も減っておりません。そういう合唱人は多くいらっしゃると思います。このコロナ禍の折には、フリーランスの音楽家の皆様を少しでも支えていかなければならないのではないかと思います。

合唱指導いただいている方の中でも、特にフリーランスの方は、今後生活が成り立たなくなることが予想されます。そうすると、将来リアルアンサンブルができるようになった時に、もう音楽家でなくなってしまったのでは、指導を受けていた団体は、元には戻れないこととなります。

合唱団によっていろいろな考え方がありますが、もちろん強制するものではないのですが、私は、指導者に対しては、ただレッスンにだけお金を払っているのではないのだと思っています。同じ時間を共有し、時には練習外も含め親しくお付き合いをさせていただいている先生をもつ合唱団は多いと思います。

当然一人で大金をはたかことはできませんので、多くの人が少しずつお金を出し合って継続的に支えていくことを考えたいです。もちろん既存の組織に流すことも考えられますが、スピード感が重要なので、フットワークが軽くないといけないと思います。

指導者の方の中には、そういうことを「施し」のように受け取ってしまい、頑なに拒んだり変に気を遣いだしたりされそうですが、私は少なくともアマチュア合唱団において、指導者と歌手は音楽をより高みに引き上げるために対等であるべきだと考えていますので、困っているときには助け合うのが理想の姿だと思いますので、このような意見を述べています。

すでに合唱団によっては、練習がなくても団費を集め、そのお

金をもとに満額でなくても指導者を支えている実態があるようです。単なる施しではなく、来るべき本格的活動への投資として、意義を理解し支えていくべきだと思います。

4. 終わりに

このコロナ禍で、私も東京都連の「春こん。」を自らの意志で棄権したのを皮切りに、3月8日と5月9日の演奏会、6月の合唱祭と、いくつもの予定がキャンセルになりました。辛いといえば辛いですが、やはり命の危険が少しでもあるということを知った以上、当然の選択と理解しました。

この災難を、震災などの災害になぞらえておられる方も多いですが、私は戦争の苦難にさらされているのだと思っています。古い話かもしれませんが、私は、第二次世界大戦の苦難の後には、合唱がちゃんと復活しているという認識をもっています。そして今度も同じだと思っています。必ず合唱は復活できます。

それでも、コロナに打ち勝つ前に我々が斃れてしまってはなんにもなりません。そのためには感染リスクを可能な限り避けなければなりません。まず、命を大切に、来るべきリアルアンサンブルの楽しさに思いを馳せながら、バーチャル合唱をより楽しいものにしていく努力ができたと思います。

みなさま、がんばりましょう！

< 完 >

【この文章は facebook グループ「ポストコロナの合唱活動を考えよう」への投稿をもとに加筆・修正したものです。】

ほんとにもらえるの、持続化給付金 法人 200 万円、個人事業者 100 万円

4月27日、感染症拡大の影響を受けている法人や個人事業者に給付金が支給されることになりました。

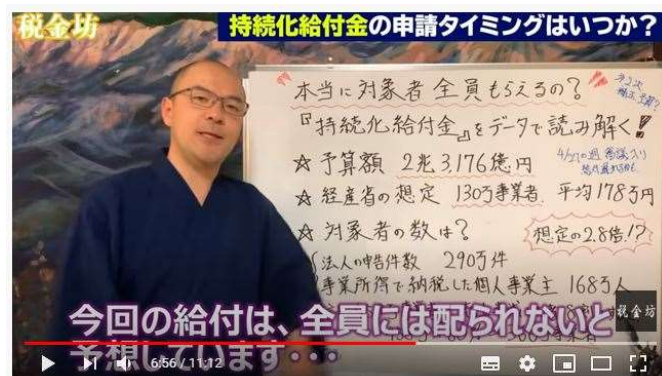
売上が前年同月比で 50%以上減少した場合、最大で法人 200 万円、個人事業者 100 万円が支給されます。

申請手順は、経産省ホームページに仮登録→メールが届く→本登録へ進むという流れです。

2019 年確定申告の控え、売上減少となった月の売上台帳の写し、個人事業者の場合は身分証明書の写しを添付して申請する。スマホなどの写真画像でも可。給付は申請の約2週間後を想定しているといえます。フリーランスの方々はどうすればよいのか、果たしてどの範囲まで至急されるのか、大いに気になるところです。

元国税調査官・根本和彦さんが youtube で詳しく解説しています。興味をお持ちの方はご覧ください。

もらえない人続出!? データから読み解く『持続化給付金』



https://www.youtube.com/watch?v=r2xP_cxHn88

(加藤良一)

